

自治体史編纂における資料 の収集と保存の現状

『新修豊田市史 別編民俗』の事例を中心に

豊田市史資料調査会
専門員 粕谷 亜矢子

1. はじめに

面積：918.32km²（愛知県全体の約18%を占める）

人口：42万5567人（平成29年7月現在・愛知県第2位）

隣接県：岐阜県（恵那市、土岐市、瑞浪市）、長野県（下伊那郡根羽村）



豊田市史編さん委員会『新修豊田市史 概要版 豊田市のあゆみ』（豊田市発行・平成23年刊）より転載

1.1 豊田市のあゆみと自治体史編さん（その1）

昭和13年（1938）トヨタ自動車工業株式会社が操業開始

昭和26年（1951）拳母町が拳母市として市制施行

昭和31年（1956）西加茂郡高橋村と合併

昭和32年（1957）『小原村誌』（1巻）刊行

昭和34年（1959）拳母市から豊田市へ市名変更

昭和39年（1964）碧海郡上郷町と合併

昭和40年（1965）碧海郡高岡町と合併

昭和41年（1966）『上郷町誌』（1巻）刊行

昭和42年（1967）西加茂郡猿投町と合併

昭和43年（1968）『高岡町誌』（1巻）、『猿投町誌』（1巻）刊行

昭和45年（1970）東加茂郡松平町と合併

昭和49年（1974）『藤岡町誌』（1巻）刊行

合併を契機に

市制〇周年記念

刊行が目標

収集資料の散逸

1.1 豊田市のあゆみと自治体史編さん（その2）

昭和50年（1975）『足助町誌』（1巻）刊行

昭和51年（1976）『松平町誌』（1巻）刊行

昭和51年（1976）～昭和54年（1979）『豊田市史』（全13巻）刊行→収集資料あり

昭和52年（1977）『小原村誌』（1巻）増補改訂

昭和55年（1980）～昭和57年（1982）『旭町誌』（全3巻）刊行→収集資料あり

昭和60年（1985）『高橋村誌』（1巻）刊行

昭和61年（1986）～平成17年（2005）『下山村史』（全6巻）刊行

平成8年（1996）～平成12年（2000）『稲武町史』（全8巻）刊行→収集資料あり

平成17年（2005）『小原村誌』（1巻）刊行

平成17年（2005）西加茂郡藤岡町・小原村、東加茂郡足助町・下山村・旭町・稲武町と合併

平成20年（2008）『藤岡20世紀のあゆみ』刊行→『新修豊田市史』編さん事業の中にあり

平成18年（2006）～平成35年（2023）『新修豊田市史』（全25巻）刊行予定。

平成23年（2011）市制60周年事業。『新修豊田市史概要版 豊田市のあゆみ』刊行。

2.1『新修豊田市史』（全25巻）

・資料編

考古Ⅰ（旧石器・縄文）、考古Ⅱ（弥生・古墳）、考古Ⅲ（古代～近世）

古代・中世、近世Ⅰ（藤岡・小原・旭・稲武）

近世Ⅱ（拳母・高橋・上郷・高岡・猿投）、近世Ⅲ（松平・下山・足助）

近代Ⅰ、近代Ⅱ、近代Ⅲ、現代Ⅰ、現代Ⅱ

・別編

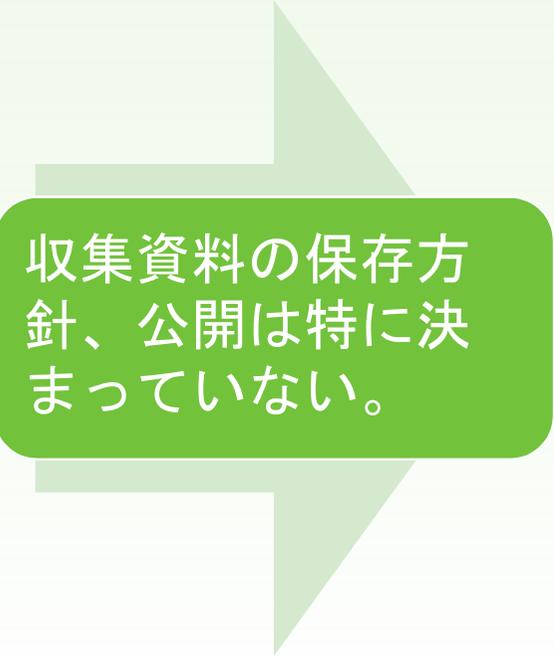
自然、民俗Ⅰ（山地の暮らし）、民俗Ⅱ（平地の暮らし）、民俗Ⅲ（民俗の諸相）

美術工芸、建築、総集編

・通史編

原始、古代・中世、近世、近代、現代

・概要版



収集資料の保存方針、公開は特に決まっていない。

2.1『新修豊田市史』民俗部会

設置時期：平成19年度～平成29年度まで（今年度末で休会予定）

委員：11名

調査内容：情報・概要、環境、衣食住、生業（農業、山樵、漁撈、畜産、諸職）
運輸交通、交易、人の一生、社会生活、工業、商業、年中行事、信仰
民俗芸能、口承伝承など

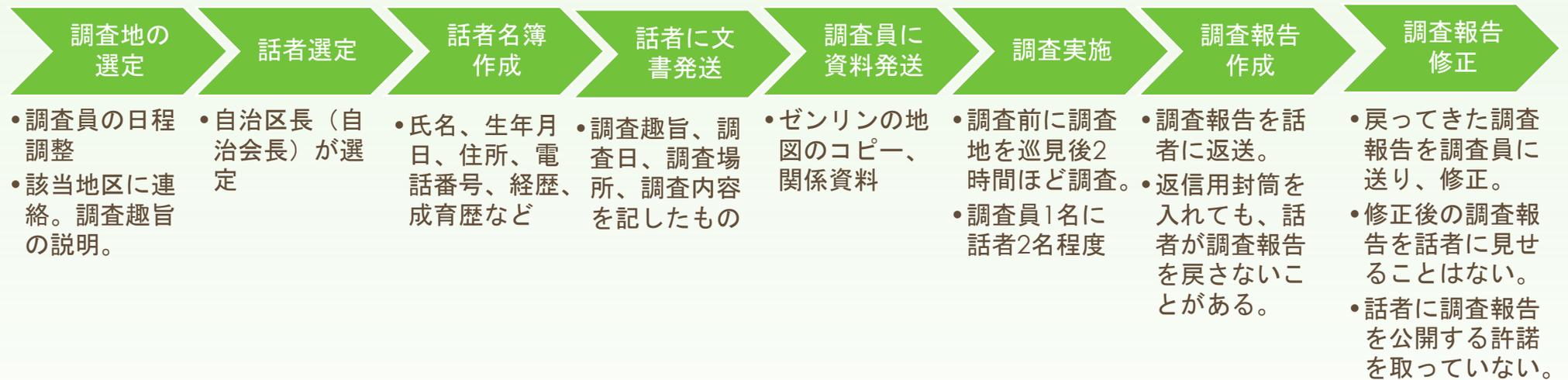
調査対象：豊田市内在住の人（年齢層はおおむね50代～90代）

調査手法：聞き書き（映像記録はなし）、古写真などの収集（デジタルカメラで接写）

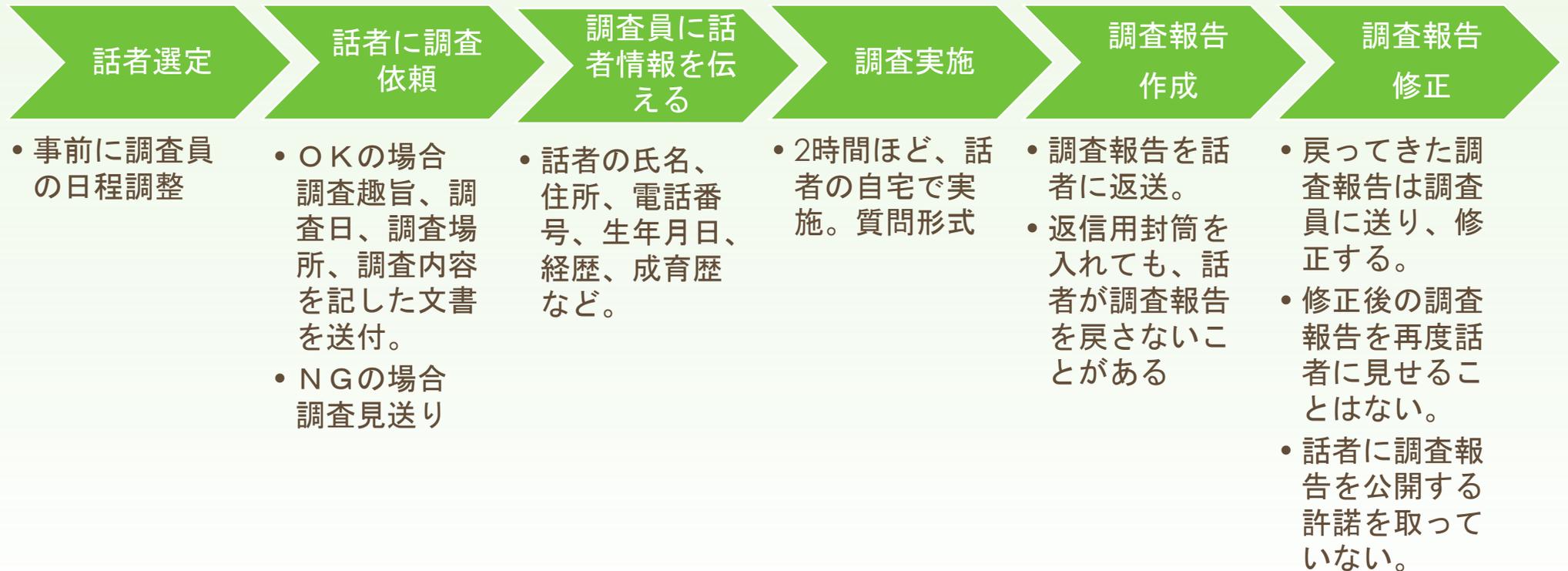
データ管理：ファイルメーカーで分類整理（今のところ文字のみ）

その他：話者の成育歴、話者が特定される恐れのあるものなどは、
取り扱い注意の印を付し、話者に返送する調査報告に表示しないようにしている。
部会休会後の資料の取り扱い、保存、公開についても決まっていない。
→調査の際に公開の可否を話者に聞いていない。すでに鬼籍の話者もいる。
調査報告を返送していないものもあるので、誤りがあるかどうか不明。

2.2『新修豊田市史』民俗部会の調査 合同調査



2.2『新修豊田市史』民俗部会の調査 個別調査



2.2『新修豊田市史』民俗部会の調査 現地調査

該当地区に連絡

- 自治会長（自治区長）に代表者、行事の実施日時、場所、タイムスケジュール、撮影の可否を確認。
- OKの場合、調査趣旨、撮影対象、撮影者を明記した文書を送付。日が迫っていると省略することもある。

調査員・撮影者に連絡

- 行事の日時、場所、タイムスケジュール、自治会長など代表者の氏名を伝える。

写真撮影

- 自治会長、代表者に挨拶。
- 腕章と名札をつける。
- 見学者の邪魔にならないように配慮。
- 祭礼の撮影でアマチュアカメラマンから苦情がきたこともある。

写真整理

- フォルダに「西暦月日、撮影地、撮影対象、撮影者」を付し整理。
- 画像には位置情報を埋め込んでいる。
- 写真が共有フォルダを圧迫。
- 事務局以外の撮影者が撮影したものの著作権の保持が曖昧。

3. 『新修豊田市史』民俗部会の調査の問題点

話者との 行き違い

「こんなつもりで話したのではない」
「自分の話したことを文章化されることに困惑した」
「独善的に断定的に書かれている」
「調査をなかったことにしてほしい」

話したことがすべて本に
掲載されるという誤解

過去の調査の 行き違い

「調査に来た時、大人数で来て、ずかずかと家中を歩き回った。写真を撮るなら、もっと片付けたのに」

生きてきた足跡が本に残ると
喜ぶ話者もいる。

個人情報

- 個人が断定されなければ、個人情報ではない？
- 話者が居住する地区で話者が特定されてしまうものを本に掲載してしまってもよいのか？

丁寧な説明

誤解を生じ
させない

4. おわりに

聞き書き資料

活字にしなければ、古文書や考古資料のように目に見えない。

調査員が話者から聞いたことを活字にしたもの。

話者との良好な人間関係を築くことでよい資料となる。

人の話をまとめるだけだから、誰でもできるとわがち

『新修豊田市史』で収集した聞き書き資料の公開の許諾を今からとるのか？

収集した古写真と写真の公開の許諾を取っていない。

収集した聞き書き資料の活字化の予定はない。